

パラグアイ内政・外交報告（9月分）
政治情勢

2018年10月作成

1 内政

(1) 4日、オビエド・マット上院議員（UNACE党）は辞表を提出した。検察庁は同上院議員の汚職疑惑を捜査していた。

(2) 8日、パラグアイ政府は臓器移植法を公布した。

(3) 11日、キンタナ下院議員が麻薬密売人の疑いのある人物と関わりがあるとして、検察庁は、同議員の議員特権停止を要請した。

2 外交

(1) パラグアイ伯外相会談

カスティグリオーニ外相は、就任後初の外遊として伯ブラジリアを訪問し、ヌネス同国外相と会談した。両外相は、二国間の物理的統合、貿易・投資、治安分野における協力、イタプア二国間水力発電所、国境地帯の開発等の幅広いテーマについて意見を交わした。特に、両外相は、両国を繋ぐ新たな架橋2本の早期建設に向けたフィージビリテイスタディを推進することを約束した。また、両外相は、地域統合及びメルコスール・EU間のFTA交渉に係る方向性並びにUNASURの改革の必要性について一致した。

(2) 在イスラエル大使館の再移転

ア 5日、パラグアイ外務省は声明を発出し、「パラグアイ共和国は在イスラエル・パラグアイ大使館を、2018年5月9日付け声明により前の場所（テルアビブ）に再移転することが適切であると考え。」との考えを示して、在イスラエル・パラグアイ大使館をエルサレムからテルアビブに戻す旨発表した。

イ ネタニヤフ首相は、上記決定を受け、在パラグアイ・イスラエル大使館を閉鎖する旨発表した。同首相はアブド・ベニテス新大統領の本決断を「非常に重大」とみなしている。

ウ 5日、カルテス前大統領は自身のツイッターにおいて新政権の決定を批判した。

エ 6日、ハレル(Harel)在パラグアイ・イスラエル大使は、イスラエル政府が在イスラエル・パラグアイ大使館のテルアビブへの再移転に対抗する措置として在パラグアイ・イスラエル大使館の閉鎖を決定したことにともない、パラグアイを出国した。

(3) 第73回国連総会におけるアブド・ベニテス大統領の一般討論演説

25日、アブド・ベニテス大統領は、第73回国連総会において一般討論演説を行った。演説のポイント以下の通り。

●安保理は改革されるべき。パラグアイは、安保理へのより多くの途上国の参加及び拒否権の完全な廃止を求める。

●権力の濫用に直面するベネズエラ及びニカラグアの国民に連帯を表明する。

●武器貿易条約及び核兵器禁止条約の採択は、軍縮・不拡散への大きな一歩。

●パラグアイは、国連システムに参加するという台湾の正当な要請を支持する。

3 要人往来

(1) 往訪

- カスティグリーニ外相，伯・ブラジリア（公式訪問）
- ビジャマジョール内相，コロンビア（公式訪問）
- ドウラン都市計画・住居・居住環境相，韓国・ソウル（第6回 GICC 2018 参加）
- ロメロ女性相，米国・ワシントンDC（第4回米州間女性会議出席）
- アブド・ベニテス大統領，ウルグアイ・モンテビデオ（メルコスール首脳会議出席）
- リチ農牧相，亜・ブエノスアイレス（第36回南部農牧委員会・定例会出席）
- ロメロ女性相，ウルグアイ・モンテビデオ（第12回女性相及びハイレベル女性官僚会議）
- クラメル商工相，ロシア・サンクトペテルブルグ（第2回ユーラシア女性フォーラムの際に面談）
- アブド・ベニテス大統領，カスティグリーニ外相，ロペス財相，米国・NY（国連総会）
- マッソレーニ厚生相，米国・ワシントンDC（第56回パンアメリカン保健機構，第70回世界保健機構米州地域会議）
- ペッタ教育相，グアテマラ・アンティグア（第77回イペロアメリカ教育・科学・文化委員会・定例会出席）